

過疎地等におけるブロードバンド サービス普及に向けた課題と解決策

(社)日本インターネットプロバイダー協会常任理事
立石 聡明

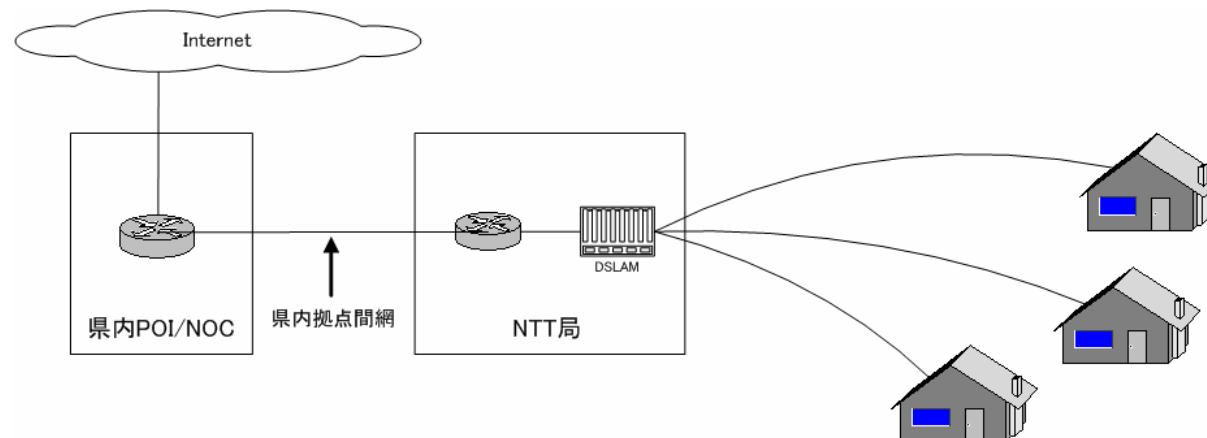


現在利用可能なラストワンマイル

- 現在、下記のもの以外に無線等様々な技術が考えられるが、現実的な選択肢として下記を選択
 - ADSL
 - FTTH
 - CATV

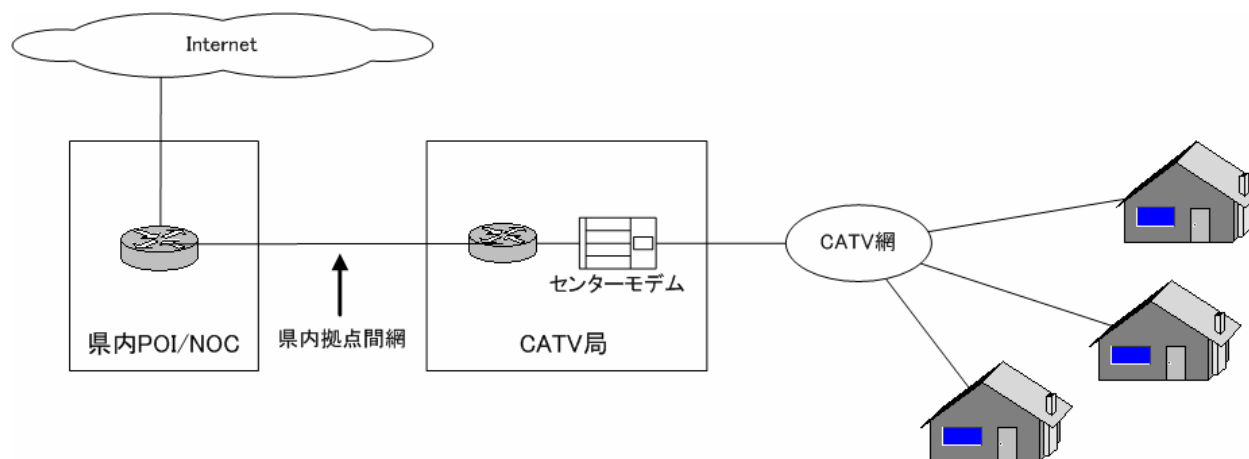
ADSLを利用する場合

- DSLAMを収容する局舎から加入者宅までの距離が長いことが多く、実用にならないあるいは全く利用できないところが以外に多い。
- 各県におけるインターネット接続ポイントと局舎の距離が非常に大きく、回線費用を負担できないところが多い。



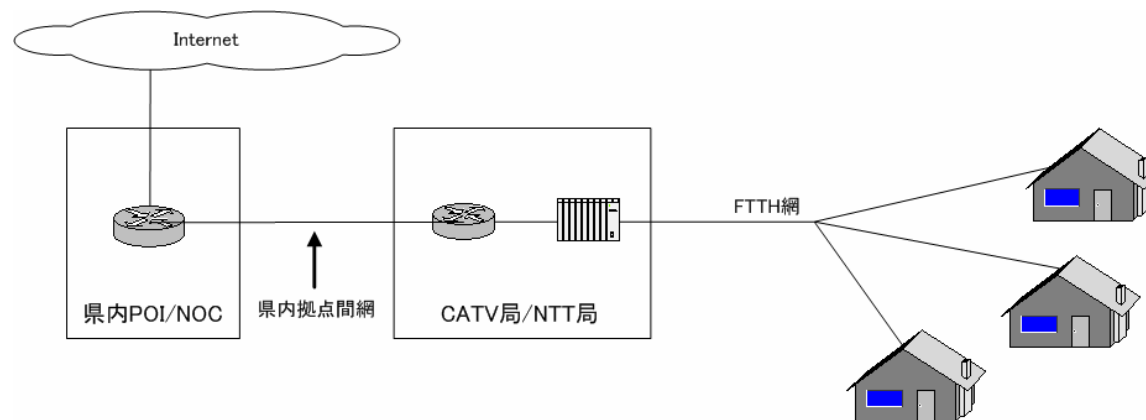
CATVを利用する場合

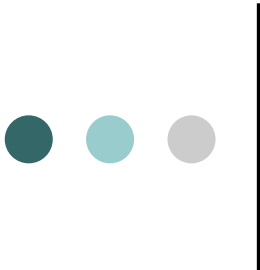
- ADSL同様、CATVセンターモデム設置局からインターネット接続ポイントまでの距離の長いところが多く、回線費用等の負担大きい、あるいは回線そのものがない場合もある。
- 幹線の設計が古い場合、同一周波数をシェアする人数が多く、混雑時にスピードが遅くなる。



FTTHを利用する場合

- ADSLおよびCATVと同様、回線収容局からインターネット接続ポイントまでの回線費用負担が大きい。
- 加入者宅までの初期コストが大きいため、全国的な需要が伸びなければ、導入そのものが進まない。





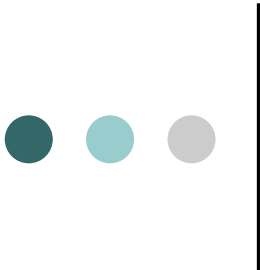
東京から遠いエリアの場合

- トランジットに東京からの回線コストが上乗せされるため、非常に高い接続料金を払っているケースがよくある。
- さらに県庁所在地 (POI/NOC) から遠い郡部ではさらに回線コストを必要とする。



考えられる解決策(1)

- POI(またはNOC)までの回線およびその費用
- 各県で安いトランジットの調達をするための仕組みづくり
- 県内足回り回線が少ない、あるいはないことが多いため、各県の情報ハイウェイ等の整備
- 将来的には各県間の情報ハイウェイの接続



考えられる解決策(2)

- 通信費単独での採算性は非常に悪い
ため、地域に根ざした住民サービスの一部
として提供する必要があるのでは？(介
護や緊急医療など福祉等を絡めたサー
ビスの提供による維持)
- 住民を始め、行政担当者や議員のリテラ
シー向上